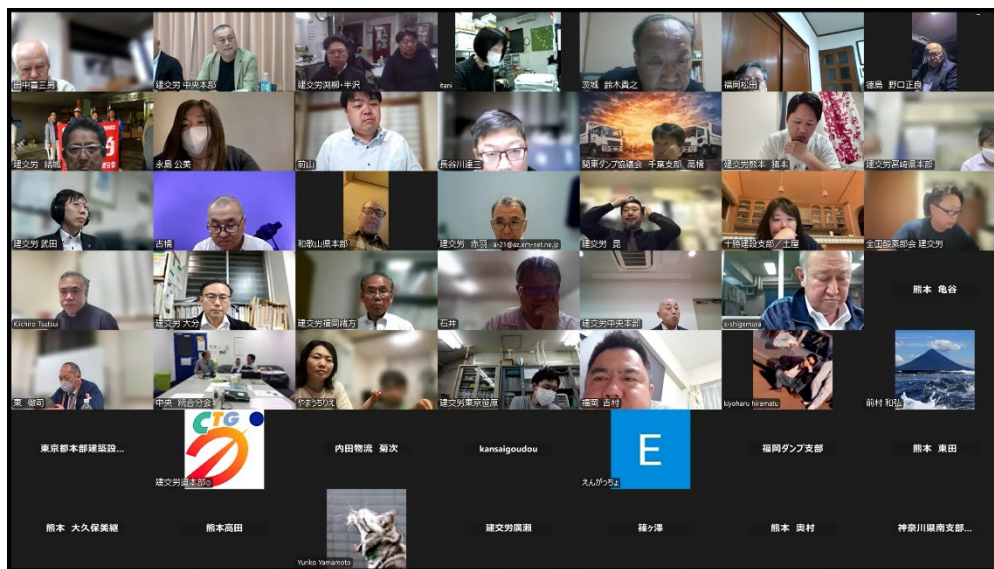


トラック部会主催の学習会を実施

ダンプ白ナンバー問題を学習 制度の矛盾と課題を共有



全国トラック部会は、ダンプの白ナンバー問題をテーマとした学習会をオンライン併用で開催し、全国から60人を超える参加者が集まり、現場の実態と制度の課題について理解を深めました。今回の学習会は、トラック運送業界をめぐり昨年成立した「トラック適正化2法」を背景に企画されたものです。同法の柱の

一つである「違法な白トラ行為にかかる荷主への罰則を含む規制強化」は、違法・脱法的に運行する白ナンバートラックの増加に対する重要な前進とされていますが、その一方で建設現場などでは新たな問題も生じています。具体的には、「ダンプ規制法」に基づき自家用ダンプとして働いてきた車持ち労働者が、白ナンバーであることのみを理由に一律に排除される事例が各地で発生しており、深刻な問題となっています。こうした状況を受け、制度の正しい理解と現状の共有を図り、今後の運動と対応の方向性を考えることを目的に開催されました。

講師は栃木県本部の山内委員長が務め、ダンプ白ナンバー問題が高度経済成長期にさかのぼる歴史的経緯や、当時「暫定措置」として導入された制度が抜本的に見直されないまま現在まで続いている実態について解説しました。また、白ナンバーダンプが広く運用されてきた背景には建設業界の構造や国の政策判断があり、その矛盾が現在、白ナンバーのダンプ労働者の現場排除という形で表面化していることが指摘されました。

参加者からは、「これまでよく分からなかった問題が理解できました。同時に、国の制度のいい加減さが今も続いていることに怒りを覚えました」「昭和40年代の建設ブームの中での何でも許される風潮のツケが現在の事態を生んでいると感じます」といった声が寄せられました。また、「60年前から続く問題であることや、大企業の意向に沿って進められてきた政府のやり方を改めて学びました」「当時の三省の取扱い案が実現していれば状況は変わっていたのではないかと思います」「同じハンドルを握る労働者として共に取り組むべき課題だと感じました」との意見も出されました。

今回の学習会を通じて、ダンプの白ナンバー問題は単なる法令の問題ではなく、長年の制度的不備と業界構造に起因する課題であることが共有されました。全国トラック部会では、今後も学習と議論を重ねながら、ダンプ労働者をはじめとする仲間の雇用と生活を守る取り組みと、制度改善に向けた運動を進めていくことが求められています。